

北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる



由良川の源流が流れ下る北岸の山裾の茅葺き集落 美山 かやぶきの里 全景 2012.9.17



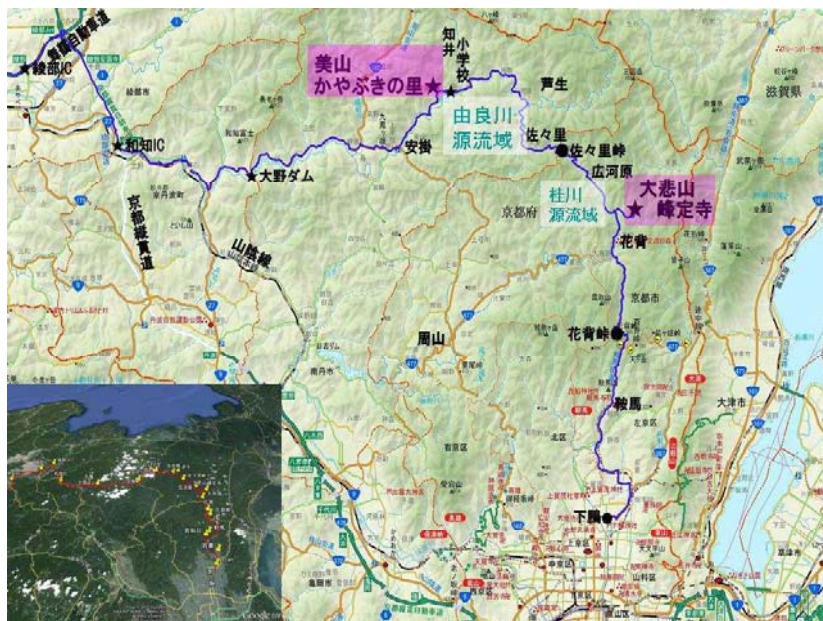
北山花背の奥 修験道 北の大峰と呼ばれる大悲山峰定寺 桂川源流 京都の北端広河原で 佐々里峠の道脇の巨樹 由良の源流 芦生出合橋周辺
京都から北山 日本海側と瀬戸内側の分水嶺 佐々里峠を越えて由良川の源流へ 2012.9.27

京都下鴨→花背峠→花背→**大叢山峰定寺**→広河原→**佐々里峠**→佐々里→**由良川源流**・芦生出合橋→美山知井小学校→**美山かやぶきの里**→安掛峠→**大野ダム**→和知IC→若狹・舞鶴自動車道→神戸

9月17日 京都八瀬へ墓参に行った帰りに北へ
京都北山の森を抜けて由良川の源流を美山町の
かやぶきの里へ足を伸ばして
舞鶴自動車道から神戸へ帰ってきました。目
的は最近良く耳にする美山町かやぶきの里へ行
きたい。

また、深い森に包まれた北山の中を瀬戸内側/日本海側を分ける中央分水嶺「佐々里峠」を通過して、由良川源流へ行けるのも魅力。地図で見ると学生時代 何度も通った由良川の源流 芦生から由良川にそって西へ少し下ったところ。何度か通った街道筋ですが、かやぶきの里の記憶はない。 また、京都北山の再奥部にある佐々里峠の南側は桂川・淀川水系で北側は日本海へ注ぐ由良川水系である。

「京に田舎あり」と言われますが、京都市の北端の集落広河原はその佐々里峠の南側下にある集落で、ここまでが京都市。「ここが京都市??」とびっくりする北山の最奥部である。



京都下鴨で昼食を済ませて、久しぶりに鞍馬街道を北へ 花背の峠を越えての京都北山の最奥部のドライブである。
年々市街化が進んでいますが、岩倉・静原の集落を抜けるとその奥は北山の深い森の中。
緑の森に包まれた北山 巨樹にも出会え、大悲山の舞台に立てたのも久しぶり。
そして 念願の分水嶺 佐々里峠越で由良川源流・美山かやぶきの里へ

1. 花脊峠から 花背 大悲山峰定寺へ



京都 賀茂川 加茂大橋 左 比叡山 西 大文字山

ここから鞍馬街道を北山 花背の峠を越えて 賀茂川・桂川の源流 大悲山・佐々里峠へさかのぼり
分水界 佐々里峠を越えて 由良川の源流域 芦生 そして美山かやぶきの里へ

京都市街地から北山の中に分け入る昔からの街道筋。東の花折峠と並ぶ美しい名前の峠である。でも その名前とは裏腹にきつい峠。峠の北にある花背の集落の人々は収穫したものを毎日京都の市街地まで運んで、売りさばいたという。その花背の集落の北 広河原へ入る手前的大悲山口で分岐する道を左手にとると大悲山峰定寺で、その門前に京料理の老舗美山荘がある。

昔行ったことのある切り立った崖に立つ峰定寺の舞台を思い出し、美山荘も見たくなって 大悲山に寄り道をしました。

花背の峠を越えて 花背の集落を抜けると程なくまっすぐに伸びた杉木立が美しい森に包まれた大悲山峰定寺。大悲山は北の大峰と呼ばれる険しい山で山中に行場がある険しい修験の山。

その山中 崖の山腹上部に木組が組まれた舞台の上に本堂がある大悲山峰定寺がある。



花背峠を越えて 花背で 川が北へ流れている 2012.9.17.



静まり返った森の中 大悲山峰定寺の駐車場
数多くの山伏行者さんと観光バスにびっくり

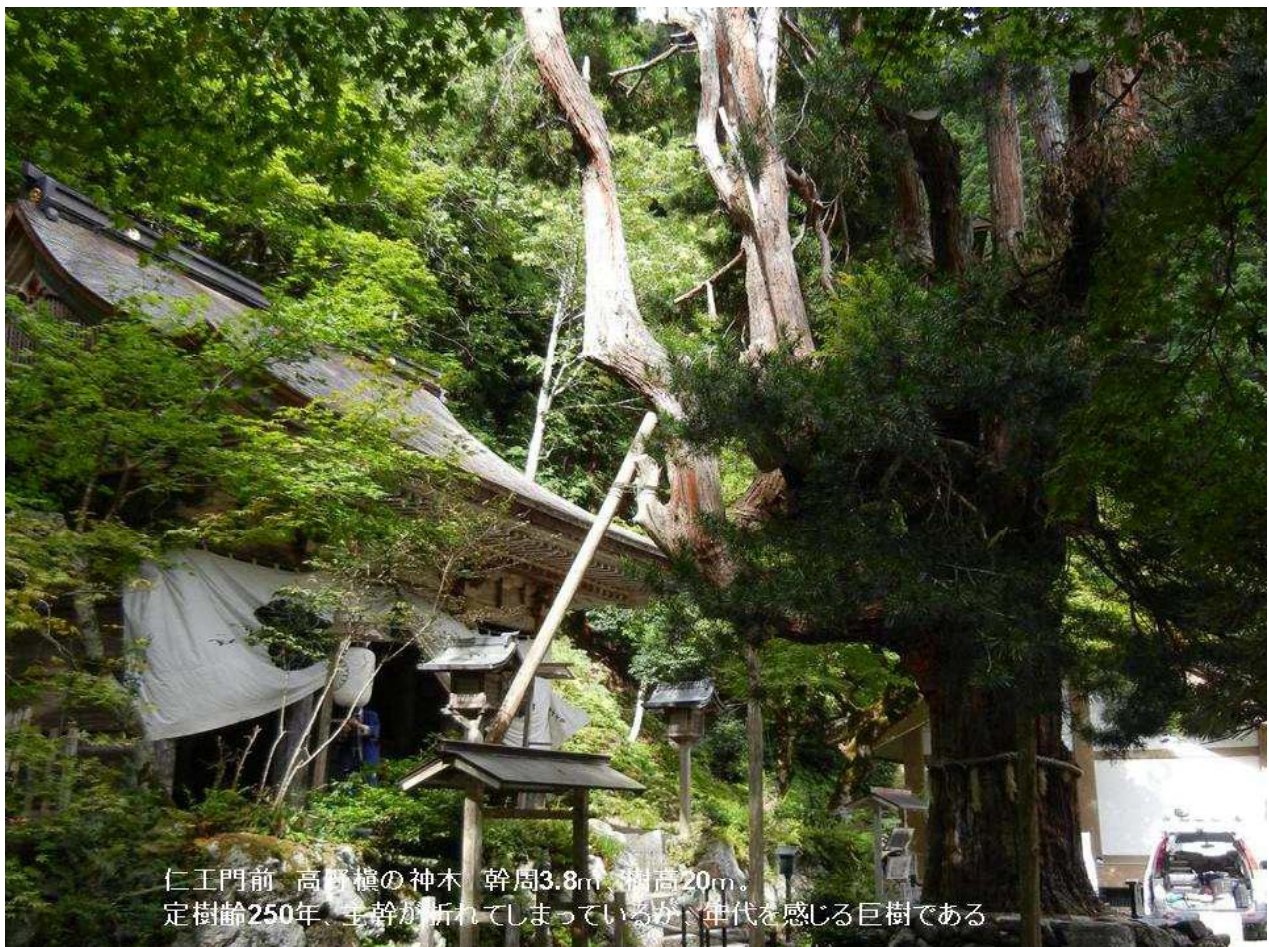


大悲山峰定寺の山門
この山門の奥 険しい山の崖の上に本堂がある

北山の奥部静寂の森の中に 大勢の山伏行者さんたちの姿と 10 台以上も並んで止まっている観光バスにびっくり。

聞いて 判ったのですが、9 月 17 日は本山修験宗峰定寺の年に一度の「採燈護摩供」の日で 数多くの行者さんたちによって護摩行が行われ、 山の上の本堂に安置されたご本尊の千手観音像も御開帳されているという。

また、仁王門前には 推定樹齢 250 年、高野槇の神木 幹周 3.8m、樹高 20m 主幹が折れてしまっているが、年代を感じる巨樹でした。



仁王門前 高野槇の神木 幹周3.8m、樹高20m。
推定樹齢250年、主幹が折れてしまっているが、年代を感じる巨樹である

ちょうど 行事が終わって 行者さんたちが、山の上の本堂参拝を終え、山を下ってきたところ。

杉の巨樹がまっすぐ立ち並ぶ崖に沿ってジグザクに約 420 段の石段がある参詣道を登ると本堂の舞台が見えてくる。緑に包まれた森の中 誰もいない神聖な空間 苔むした石段が古さを感じさせる。

急な石段が続くが、自然の中に溶け込んで 心地良い参詣道である。右には行者堂 そして 行者堂の後ろには切り立った崖で、2 条の鎖が見える。 自然災害で大木が行者堂の屋根に倒れかかり、また、崖も荒れて、今は行場での修行は行われていないと寺の裏方の人にお聞きしました。



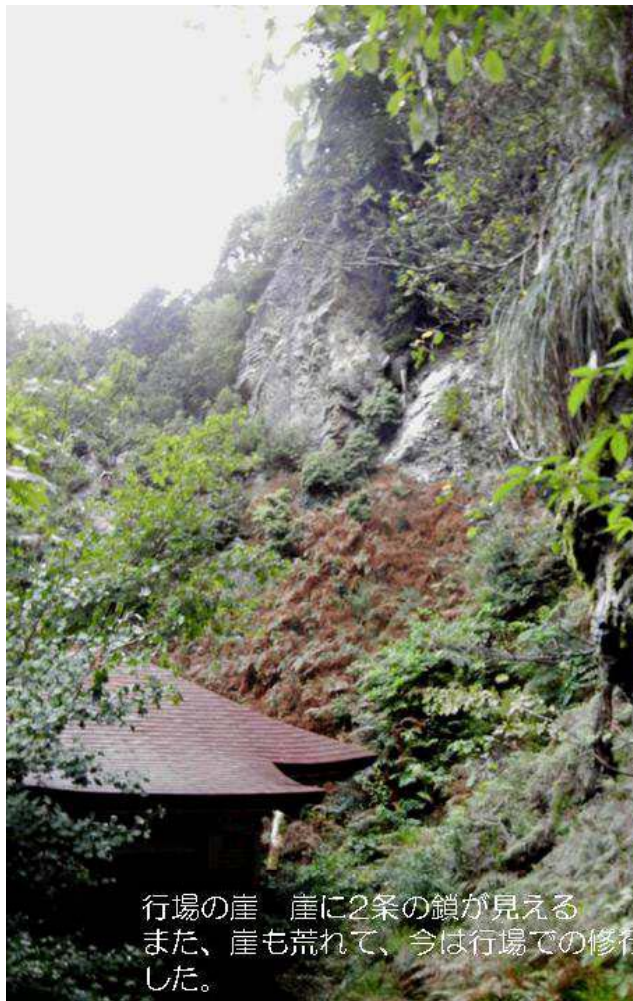
山の上の本堂へ続く境内参詣・行場への道

登り切ったところが本堂の舞台 そこからは全く人家のないどこまでも続く山並。自然のまっただ中にいる。

かつてみたのもこの変わることはない景色や・・・と。

また、 ラッキーにも千手観音参拝ができました。

ふっと思い出して立ち寄った大悲山 巨樹にも出会え こんな空間が 若い人の言うパワースポットだろうなあ・・・と。



行場の崖 崖に2条の鎖が見える
また、崖も荒れて、今は行場で
の修行は行われていないと寺の裏
方の人にお聞きしました。



自然災害で大木が行者堂の屋根に倒れかかり、



峰定寺本堂 舞台より 2012.9.17.

花背の集落の奥 桂川の源流にある 修験道の本山大悲山峰定寺
静けさの中 張り詰めた空気が漂う

2. 佐々里峠 京都北山の最奥部 日本海側と瀬戸内側を分ける分水界

でも この森に包まれた山中の集落も京都市左京区である



京都/丹波の分水界 佐々里峠

大悲山から元の道へ戻り、広河原の集落を抜けてゆく。
どこもかしこも山 緑のトンネルである。川はまだ南の京都側に流れている。以前はここまでが車道のあるどんつきであったが、峠道が開通して、京都から丹南を通じて、日本海へ直接抜けられるようになった。また、ここまでは京都市内から朝夕バスが通っていて、昔も今も北山のハイキングの基地である。

学生時代には 重いリュックを担いで、何度か山越えをして 芦生の森へ通ったことがある。

ここから先が京都市の広河原と丹南市美山町佐々里を結ぶ険しい峠道 京都北山の最奥部で、ここまでが京都市左京区で 京都と丹波の境 瀬戸内側の桂川と日本海側由良川の分水嶺で、この峠を超えると由良川の源流域である。



広河原を南へ流れ下る桂川源流

佐々里峠の峠のすぐ手前の峠道の崖ぎわに巨大な樹が見える。峠道からは全体がよく見えないのですが、株の胴回りがすごい。これはすごい。すごい生命力を感じて デジカメでパチリ。これも芦生の台杉なのだろう。

この周辺にはもと大きい芦生台杉の巨樹があると聞く。

全体がよくわかりのませんが、根本から離れて峠道を登ってゆくと頭をのぞかせているのが見えました。



佐々里峠の道脇でみた芦生台杉??の巨樹 生命力がみなぎる樹の根回り部

3. 由良川源流 美山町芦生から 美山町北 かやぶきの里へ



由良川の本流と佐々里川の合流点 芦生出合橋

佐々里峠を越えて 美山町に入った道が深い緑の山中を北へ流れ下る佐々里川の谷筋を下り、芦生出合橋で由良川の本流合流する 滋賀・福井・京都の県境三国岳周辺 芦生の森から流れだして、人工美林に覆われた山間 美山町を西に流れ下り、日本海に注ぐ由良川。芦生は京大の演習林もある森の里 代々山仕事を生業とする人たちに手入れ・守られて切り倒された杉株の上に新しい芽が育つことによって次々と命を受け継ぎ、巨樹として育った芦生台杉の巨樹の森が今も残っている。

かつては 材木の生産地として賑わった街道筋。 いまもまっすぐに伸びた杉の美林の山並に囲まれ、山間を下ってゆく由良川沿いの両側の狭い段丘に耕地と集落が点々と続く。美山町北「かやぶきの里」もそんな集落の一つである。



美山町田歌周辺 山腹に杉の美林が続く



美山町江和周辺

芦生から流れ出て くねくねと曲がりながら 美山町の山間を東から西へ流れ下る由良川源流



出合橋 左 田歌 右 芦生 芦生から流れ下る由良川

佐々里峠から北へ流れ下る佐々里川が
 芦生から流れ降ってきた由良川本流に合流する
 芦生 出合橋



美しい木造校舎 知井小学校



由良川が東から西へ流れ下る森の里 美山町 2012. 9. 17.

● 美山町北 美山かやぶきの里



^ 美山町 かやぶきの里で ちょうど真っ白な蕎麦の花が満開でした

材木の里を象徴する知井小学校の美しい木造校舎の前を通りすぎて、美山町中の集落を抜けると黄金色に稔った田圃の向こう右手山際に 幾つかかやぶきの家並みが連なった集落が見えてくる。

車の進行とともにどんどん大きくなって・・・

美山かやぶきの里到着。 この里の正面には一面真っ白な蕎麦の花 その向こうに茅葺の家並みが連なっている。 夕方近くで、人波も引いた後で落ち着いた中で 集落が散策できる。

真っ白な蕎麦の花の中を集落への一本道集落の入口に赤いポストがあり、集落をバックに写真を撮っている人がいる。

周りの景色とよく調和して
びっくりするほど美しい。











由良川の流れを前にかやぶきの家が達ち並ぶ集落の姿は本当に美しい。

少し観光化しつつあるとはいえ、茅葺きの街並みが土産物屋の街並みでなく、集落の姿そのまま、しかも、村の人たちが話しかけに気楽に応じてくれる 生の生活空間として現役であるのも嬉しい。

こんな近くに深い森・そして由良の源流に古いかやぶきの街並・集落が残っていることにも感激でした。

でも 京都から佐々里峠を越えてここまで来るとなると道草もするし、ちょっと遠いかなあ・・・

後でわかったのですが、でもこの集落の北側の山を越えれば すぐ若狭小浜。

最近よく聞く日帰りツアーのコースになっている。

西にはすぐ近を舞鶴自動車道・京都縦貫道が京阪神を結んでいて、2時間ほどで京阪神から行き着ける。

ダイレクトに来れば近い。

5. 夕暮れ時 由良川沿いを西へ 和知 IC から綾部 IC をへて 舞鶴自動車道を神戸へ



久しぶりに見る京都の木瀬 由良川 大野ダム湖 2012.9.17



由良川岸 稲刈りを終えた田圃で野焼きが行われていました 2012.9.17



由良川沿い、夕暮れ時を過ぎて再びの緑豊かな田舎の風景で 2012.9.17



こんな近くに深い森があり、古いかやぶきの街並・集落が残っていることに感激でした。

また、かやぶきの里から西へ由良川沿いを帰る途中見た大野ダム湖 そして夕闇の中 刈入れの終わった田での野焼きの煙も印象的でした。

緑の中で過ごせた一日 盛りだくさん一日でしたが、学生時代に何度となく通ったつかしい街道筋。

懐かしい地名が次々に出てきて うれしいドライブでした。

今度は 巨樹の森 芦生や片波川へも入ってみたいと。

夕闇迫る由良川沿いを西へ 今日一日を思い浮かべながら

2012.9.17. 夕 Mutsu Nakanishi

京都から神戸に帰るには いつも名神なのですが、北に出たので、京都に戻らず 和知からそのまま舞鶴自動車道の綾部から神戸へ高速道路に乗ると速い速い。 神戸まで1時間半ほどで帰り着きました。

後日 資料作成しながら、インターネットを調べていて、大悲山峰定寺の仁王門から、本堂舞台に登るには受付・寺務所に連絡して登り、また、境内内撮影禁であるとの記事に接しました。

私が行った17日は「採燈護摩供」の日で、山門前は行事終了で行者さんやお寺の人たちが大勢いらっしやり、「今だと千手観音に出会える」と教えてもらい、なんのためらいもなく そのまま入山。

本堂でもお寺の方と話をしながら 舞台からの写真も取らせていただきました。

時間が遅く もう上にいたのは我々二人だけだったからかもしれませんが……。

そんなことで、禁止を知らず、舞台の写真や本堂への登り道 森の写真なども取らせていただきました。

また、インターネットでは 雨の日は入山が出来ないことや荷物は持たずに登ることになっているようで、静寂の行場で かつ崖に付けられた細い階段道での危険回避のためのように記事を読みました。

そんなんで、今回大悲山入山時の写真が入っていますが、お許しを。

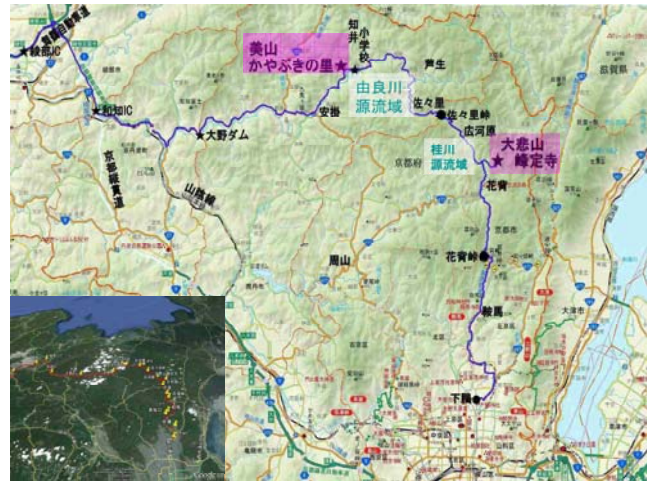


高野川・鴨川の合流点 出町から鴨川越しに眺める大文字山 2012.9.17.

京都北山ドライブ 花背峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ
北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる
2012.9.17.



渡ってみたかった賀茂大橋 橋の飛び石 左:比叡山 右:大文字山 2012.9.17.



花背峠を越えて 花背で 川が北へ流れている 2012.9.17.



下鴨神社 糺の森 2012.9.17.



広河原へ入る手前、大文字山口で、崖に立つ糺の森の真谷を思い出し、美山荘も見てくると、大文字山に到着

大悲山は北の大峰とも呼ばれる険しい山で 山中に行場がある修験の山

北山の奥部静寂の森の中 大勢の山伏行者さんたちの姿と観光バスに びっく。

聞いて、判ったのですが、9月17日は本山修験宗峰定寺の年に一度の「採燈護摩供」の日で、数多くの行者さんたちによって護摩行が行われ、ご本尊の千手観音像も御開帳されているという。

ちょうど 行事が終わって、行者さんたちが、山の上の本堂参拝を終え、山を降りてきたところ。 ラッキーにも千手観音参拝ができました。



下鴨神社 糺の森 瀬見の小川 2012.9.17.



本山修験道 大慈山 峰定寺 仁王門前 2012.9.17



仁王門前 高野槲の神木 幹周3.8m、樹高20m。
定樹齡250年、土幹が折れてしまっているが、年代を感じる巨樹である



花背大悲山京都府歴史的な自然環境保全地域

大悲山は、平安末期の久寿元年(1154)山岳修験者観空西念によって峰定寺が創建されて以来、山全体が山岳信仰の霊境となっています。

指定地域は、その南斜面で古くから自然が守られてきたところであり、今日モミ、ツガのすくれた天然林となっています。この森林では、ヒメコマツ、ホンシャクナゲ、ヒカゲツツジなどの貴重な植物や種類の豊富なシダ植物の群生地が見られます。

また、峰定寺本堂、仁王門、由緒ある行場等が周囲の自然環境と一体となって歴史的風土が保持されています。

このような美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えましょう。

特別地区では、土地の形質の変更、土石の採取等の行為は許可できません。

野生動物保護地区では、貴重な植物の採取はできません。

昭和60年3月15日指定

京都府

特別地区
野生動物保護地区

大慈山(旧大悲山)

峰定寺
仁王門
由緒ある行場

保全地域

図 録：24.30(ヘクサー)







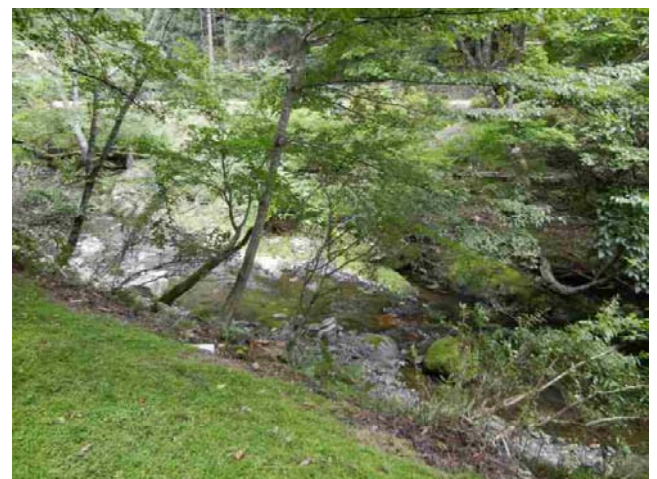
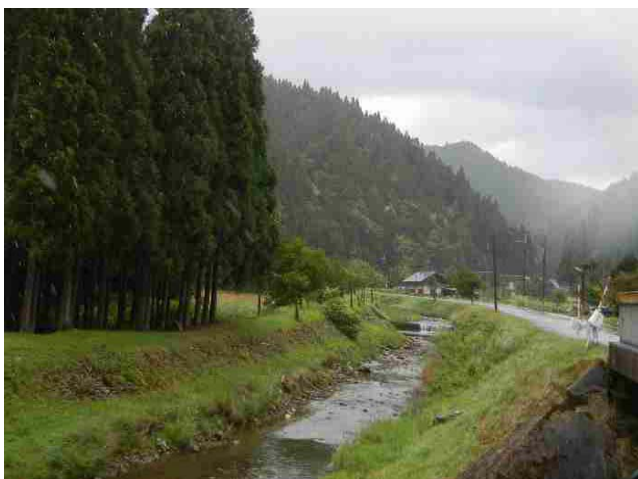
峰定寺本堂 舞台より 2012.9.17.



峰定寺本堂 奥山からの眺め 2012.9.17.



降りだした雨の中 広河原の集落を抜けて 佐々里峠へ向かう 2012.9.17.





瀬戸内側 桂川と日本海側 由良川 の 分水嶺 佐々里峠 2012.9.17.

佐々里峠の手前9ぐのころにある巨樹
全体がよくわかりませんが、離れると頭をのぞかせているのが見えました 2012.9.17

峠を下ると佐々里の集落 ここにも道脇に大きな杉が見える 2012.9.17.

由良川に注ぐ佐々里川に沿って下る 2012.9.17.



由良川源流 美山町 田畠周辺 2012.9.17.



出合橋 茨城県 水戸市 水戸から流れ下る由良川本流に出会う 2012.9.17.



由良川源流 美山町江和周辺 2012.9.17.



佐々里川が由良川本流に合流する出合橋 2012.9.17.



美山「かやぶきのさと」 2012.9.17.



美しい木造校舎 知井小学校
由良川が東から西へ流れ下る森の里 美山町 2012.9.17.



美山町「かやぶきの里」 2012.9.17.



美山「かやぶきのさと」 2012.9.17.







里はもう秋色 何度か通った由良川源流の街道筋 これだけ多くのかやぶきの家が残っているのにびっくりでした



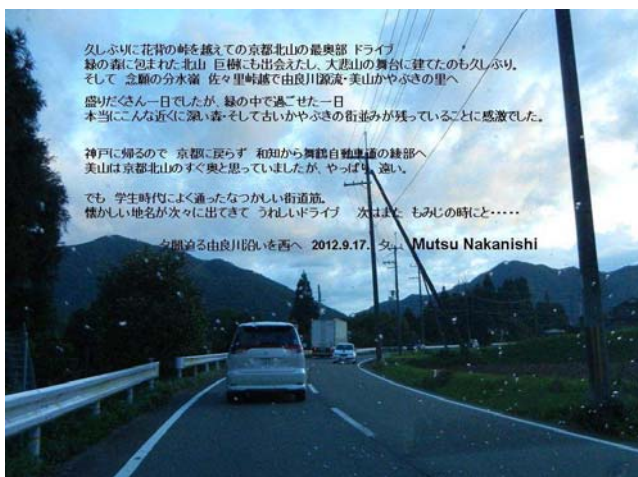
夕闇の安掛から綾部への道で 稲刈りが終わった田圃では野焼きがはじまっていました



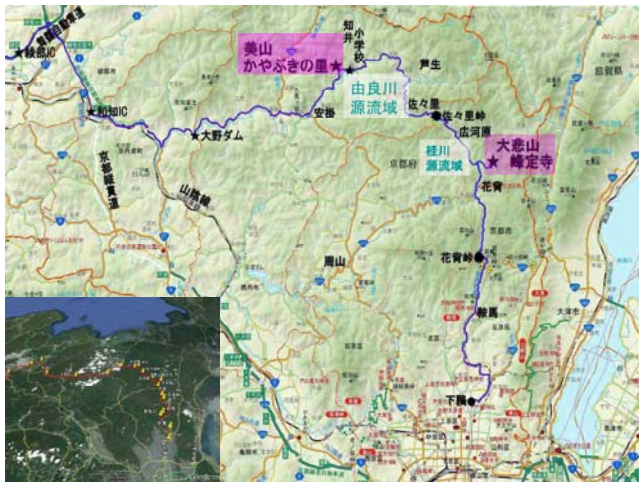
由良川沿いを安掛峠を越えて西の綾部ICに向かう道で 2012.9.17.



由良川岸 稲刈りを終えた田圃で野焼きが行われていました 2012.9.17



久しぶりに見る京都の水郷 由良川 大野ダム湖 2012.9.17.



京都北山ドライブ 花背峠・佐々里峠を越えて 由良川源流へ
北山の森・大悲山 峰定寺・美山「かやぶきの里」を訪ねる

【おわり】



後日 資料作成しながら、インターネットを探っていて、大志山峰定寺の仁王門から、本堂舞台に登るには、受付・寺務所に連絡して登り、また、境内内蔵御殿であるとの記事に接しました。

私が行った17日は「篠原摩雄」の日で、山門前は行事終了で行者さんやお寺の人たちが大勢いらっしゃり、「今だと千手観音に出会える」と教えてもらい、なんのためらいもなく、そのまま入山。本堂でもお寺の方と話をしながら、舞台からの写真も取りましたが、何も言わずでした。時間が経くもう上にいたのは数々二人だけだったからかもしれませんが・・・そんなことで、禁止を知らず、舞台の写真や本堂への登り道、森の写真なども取らせていただきました。

また、インターネットでは 雨の日は入山が出来ないことや荷物を持たずに登ることになっているようで、静寂の行場で、かつ腰に付けられた細い階段道での危険回避のための注意を汲み取りました。

そんなんで、今回大志山入山時の写真が入っていますが、お許しを。

2012.9.20. Mutsu Nakamichi